



ケイトウ栽培を視察する

農業は、人が生きていく上での基本、「食」を支えている。農業者が汗を流し生産した農産物が、私たちの糧となる。阿南市では、早期米、タケノコ、施設園芸など農業が盛んに行われている。しかし、担い手の高齢化や後継者不足が中山間地域を中心に進んでおり、大きな課題となっている。

阿南市、那賀町の青年農業者によるグループ「アグリーズ」は、自分たちが一人前の経営者となることで、地域農業の活性化につながればと活動している。活動の中で最も力を入れているのが、

農業者同士の仲間づくり。クラブ員や管内青年農業者の田畑などで視察勉強会を開催し、農業者同士で経営や栽培管理などについて情報交換している。今年も、水稲の大規模農業や、露地でケイトウなど花き栽培を行っている農業者の田畑を視察し、直接、現地で先輩農業者からノウハウなどを聞き取り、学んだ。また、

新規就農者・就農希望者の地域への定着支援を目的とした交流会「県南ニューファミリー・フォーラム」を毎年開催。青年農業者が自身の経営や理想の農業などについて、テーマを決めて意見交換を行



先輩農業者から経営方法を学ぶ



青年農業者で意見交換を行う

う。就農に当たっての悩みや経営のことなど、新規就農者が常日頃、不安に感じていることを相談できる貴重な場となっている。

また、阿南農業支援センターが主催する農業簿記や税務管理などの経営研修会に積極的に参加するほか、土作りや施肥に関する講習会の実施、県内外の先進農家や市場、商談会などにおもむくなど、クラブ員の栽培技術や経営管理能力の向上に努めている。

さらに、阿南市活竹祭など管内で行われるイベントに出店。自らが育てた農産物を直接販売し、商品の並べ方や店先でのPRを工夫するなど、生産物や販売促進活動について考える機会になっている。農産物のPRでも、青年ならではのフェイスブックなどSNSを活用した情報発信に取り組む。

「アグリーズの活動を通じて巡り会えた仲間たちと、農業を盛り上げたい」と語る代表の新田達也さん(43歳・那賀町)。「地域の農業を受け継ぎ、次の世代へと繋いでいきたい」。アグリーズの皆さんは、自分たちの手で社会を支えているという気概に溢れている。



県外の市場を視察する



阿南市活竹祭で生産物を販売